**復活節第1主日・イースター礼拝　　　　　　　　　　　　　　　　　2024年3月31日**

**「おはよう」**

**出エジプト記14章15～22節**

**14:15 主はモーセに言われた。「なぜ、わたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの人々に命じて出発させなさい。**

 **14:16 杖を高く上げ、手を海に向かって差し伸べて、海を二つに分けなさい。そうすれば、イスラエルの民は海の中の乾いた所を通ることができる。**

 **14:17 しかし、わたしはエジプト人の心をかたくなにするから、彼らはお前たちの後を追って来る。そのとき、わたしはファラオとその全軍、戦車と騎兵を破って栄光を現す。**

 **14:18 わたしがファラオとその戦車、騎兵を破って栄光を現すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。」**

 **14:19 イスラエルの部隊に先立って進んでいた神の御使いは、移動して彼らの後ろを行き、彼らの前にあった雲の柱も移動して後ろに立ち、**

 **14:20 エジプトの陣とイスラエルの陣との間に入った。真っ黒な雲が立ちこめ、光が闇夜を貫いた。両軍は、一晩中、互いに近づくことはなかった。**

 **14:21 モーセが手を海に向かって差し伸べると、主は夜もすがら激しい東風をもって海を押し返されたので、海は乾いた地に変わり、水は分かれた。**

 **14:22 イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行き、水は彼らの右と左に壁のようになった。**

**マタイによる福音書28章1～10節**

 **28:1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。**

 **28:2 すると、大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである。**

 **28:3 その姿は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった。**

 **28:4 番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。**

 **28:5 天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、**

 **28:6 あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。**

 **28:7 それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」**

 **28:8 婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。**

 **28:9 すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。**

 **28:10 イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」**

**おはようございます。イースターおめでとうございます。2024年のイースターを迎えました。今朝私たちはイエス様のご復活をお祝いするイースター礼拝に招かれて今共に集っています。「おはようございます」の挨拶の声が礼拝前に教会のあちこちで交わされていました。**

**皆さんは「挨拶の魔法」というテレビコマーシャルをご存じでしょうか。男の子が「こんにちは」というと犬が「こんにちわん」と挨拶を返します。男の子が「ありがとう」というとウサギが「ありがとウサギ」と挨拶を返します。すると「魔法の言葉で　楽しい仲間が　ポポポポ～ン」と歌が続きます。この「ポポポポ～ン」のフレーズを聞いて「ああ」と思い出した方もおられるでしょう。このテレビコマーシャルはもともとは子どもたちに挨拶の大切さを教えて、挨拶をすると友達が増えるんだよ。挨拶は魔法の言葉なんだよというメッセージを伝えるために作られました。**

**それがその後発生した東日本大震災の時に繰り返し繰り返し放送されたために、私たちは震災のコマーシャルというイメージで記憶していると思います。こんな大変な時に不謹慎などこのコマーシャルには賛否両論あったようですが、「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」と日常の挨拶ができることは決して当たり前のことではなくて、日常の挨拶ができることはそれだけで幸せなことであると受け取る人が多くいたようです。またこんな大変な時だからこそあえて「おはよう」や「ありがとう」などの日常の挨拶をすることが人と人との絆を強くしたとこのコマーシャルから受け取った人もいるようです。**

**改めて挨拶について考えてみますと、朝が来たら「おはよう」と挨拶をする。出かける時には「いってきます」と言い「いってらっしゃい」と送り出す。人から親切にしてもらったら「ありがとう」という。帰ってきたら「ただいま」と言い「おかえり」と迎える。寝る時には「おやすみなさい」という。私たちは普段何気なく挨拶をしていますが、挨拶をできるということ自体が喜びの出来事なのです。新しい朝が来て「おはよう」と挨拶ができる。これは新しい朝が来るから「おはよう」と挨拶ができるのであって、新しい朝が来なければ「おはよう」とは挨拶はできないのです。どんなに悲しみの中で朝を迎えようが、どんなに苦しみの中で、失望の中で朝を迎えようが、それでも太陽が昇り朝の光が差し込み新しい一日が始まるからこそ私たちは「おはよう」と挨拶ができるのです。**

**マグダラのマリアともう一人のマリアは大きな悲しみの中、失望の中で新しい朝を迎えました。お互い顔を合わせても悲しみのあまり「おはよう」の挨拶もできなかったかもしれません。なぜならこれからお墓に行くからです。誰のお墓に行くかというとイエス様のお墓です。一昨日の金曜日の午後3時に十字架上で息を引き取り、その日の夕方に大急ぎでお墓に納められたイエス様の様子を見に行くために二人でお墓に行きました。イエス様のご遺体に会うために、いわば死んだイエス様に会うために大きな悲しみと失意の気持ちでお墓に行ったのです。**

**そんな二人の前に突然雪のように白い衣を着た天使が現れ、イエス様のお墓の蓋をしていた石を転がして、空っぽのお墓を見せて言うのです。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」そして弟子たちに告げるように言います。「あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。」**

**天使の言葉を聞いた女性たちは恐れと驚きと共に大きな喜びを持って、大急ぎで弟子たちのもとに走っていきました。お墓に行くときは大きな悲しみと失意の中で重い足取りで行ったであろう彼女たちが、大急ぎに走って弟子たちのもとに行こうとしたのです。するとまるで二人の道をふさぐかのように復活したイエス様が現われました。**

**「おはよう」なんとも拍子抜けするようないつもの挨拶をされました。「おはよう」彼女たちがイエス様の「おはよう」に「おはようございます主よ」と返事をしたかどうかは分かりませんが、彼女たちはイエス様に近寄り、イエス様の足を抱き、ひれ伏しました。イエス様は言われます。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」先に天使たちが彼女たちに告げた言葉をイエス様ご自身から言われたのです。**

**この朝私たちが注目したいのは、イエス様が彼女たちに「おはよう」と挨拶をされたことです。十字架の死と復活という大きな出来事を経験されたイエス様が女性たちに再会したときにあまりにも日常的な「おはよう」の挨拶をされました。なぜ「おはよう」と言われたのでしょうか。それは朝だから、「今日は」や「今晩は」ではおかしいからと言ってしまえばそれまでかもしれませんが、ここでイエス様が「おはよう」と挨拶して下さったことは大きな意味があるのです。**

**「おはよう」と訳されている単語ですが。聖書の元の言葉では同じ単語が別の箇所で出てきます。この単語は「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」といった日常的な挨拶の言葉ですので聖書の色々なところに出てくるのですが、この挨拶の言葉が持っているその根源的なところが現わされている箇所があります。**

**それが天使ガブリエルが乙女マリアに受胎を告知する最初の言葉です。**

**「おめでとう。恵まれた方。主があなたと共におられる。」（ルカ1：28）**

**この「おめでとう」です。この「おめでとう」と「おはよう」はギリシャ語では全く同じ単語です。「おめでとう」もっと直訳すると「喜びなさい！」です。「おめでとう」「喜びなさい！」「おはよう！」そうこの挨拶の言葉は喜びの挨拶です。**

**ですから復活されたイエス様が女性たちにされた挨拶の「おはよう」は「喜びなさい！」という喜びの挨拶なのです。イエス様は死に勝利をされて復活されました。死という悲しみが支配する暗闇を打ち破って復活の希望の朝日が差し込む喜びの朝が来たのです。愛するイエス様が十字架につけられて死んでしまった。もう二度と会えないと深い悲しみの中大きな失意の中でまだ薄暗いであろう明け方に、でも心の中は深い絶望の闇にあった彼女たちの前に復活をされた死に勝利をされたイエス様は大きな喜びと共に現れて下さったのです。死の夜は打ち破られて喜びの朝が来たのです。そのような喜びの挨拶が「おはよう」なのです。イエス様はきっと満面の笑みで「あなたたちも喜びなさい！」の意味を込めて「おはよう！」と声を掛けて下さったのです。このイエス様の喜びの「おはよう」に彼女たちの悲しく暗い気持ちに眩しい朝日が差し込んだのです。もう二度とイエス様に「おはようございます」と挨拶ができないと思っていたのに、大きな喜びをもってイエス様から挨拶をしてくださるとは。彼女たちもまた大きな喜びをもって「おはようございます」と挨拶を返してイエス様にひれ伏したのではないかと思います。**

**「おはよう」本当に何気ない挨拶の言葉です。でもその何気ない挨拶の中に大きな喜びが現わされているのです。死の闇を越えて、大きな悲しみの死の暗闇を打ち破って、復活の喜びの朝をイエス様と共に迎えることができたのです。今日はイースターです。喜びの朝が来ました。希望の朝が来ました。イエス様はこの朝彼女たちに喜びと共に「おはよう」と声を掛けて下さったように、私たちに「おはよう！」と大きな喜びをもって挨拶をして下さるのです。**

**「おはよう！」それはイースターの時だけではありません。イエス様は毎週の礼拝で私たちに「おはよう」と満面の笑みをもって挨拶をして下さるのです。ですから私たちもイエス様に「おはようございます」と喜びをもって挨拶を返したいのです。「おはよう」「おはようございます」この日常の挨拶を大きな喜びをもってイエス様と交わすことができる、この大きな喜びをもって信仰の歩みを進めていきましょう。**